くみあいNEWS
WWU
WAKAYAMA WORKERS' UNION
第１５２８２号
2022年3月29日（火）
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区（本部）（54）－3590
堺地区　652990／海南地区（54）－5555

ＡＰ２２春季取り組み速報

３月２９日の団体交渉をもって妥結

連合会は、各単組の職場討議結果を踏まえ、３月２８日（月）に開催した第１３回中央執行委員会において、ＡＰ２２春季取り組み収束方針（案）を確認しました。この確認に基づき、本日第６回団体交渉を開催し、会社に対し妥結する旨の態度を表明しました。

第６回団体交渉（要旨）

【組合】

会社より示された回答は、国内製鉄事業が過去最高益に達しておらず、世界的に短期間で大幅な環境変化が生じる状況にあるとするなか、２０２２年度３，０００円、２０２３年度２，０００円という、複数年での交渉を始めた１９９８年以降で両年共に最高額である。そして、会社が、「組合ならびに従業員の皆さんがこの間に示された惜しみない協力・努力に今次交渉を通じて最大限に報いたいとの思いを込めて、連合会の力強い決意も勘案の上、回答に至った」としている点を含め、労使の信頼関係を尊重した会社の英断として高く評価するものである。

また、今回の財源投入は、この数年間、会社諸施策に対し、先への展望に繋がると信じ、身を削るような献身的な対応を行ってきた組合員の協力・努力に報いるものである。あわせて、鉄鋼産業の賃金の相対的位置付けを高めるものであり、日本製鉄で働くことに対する魅力や誇りにつながるものであるとともに、採用難になりつつあることや自己都合退職者が年々増加するなか、優秀な人材の確保・定着の観点からも意義あるものと受け止める。

年度別の配分について、「初年度に重点化して財源を投入することとした」との点については、一刻も早い安定生産の実現、生産設備構造対策を含め中長期経営計画で目指す事業体質の早期実現に向けた会社の強い思いの表れとして受け止めるものである。

今次回答は、連合会の主張や組合員の思いを十分踏まえた「会社の強いメッセージ」として示されたものと判断するものであり、今次交渉は、会社回答内容をもって妥結する。

【会社】

連合会は本日の円満妥結に至るまで、真摯に議論を重ねられ、先日の回答に対しても「単組と連携のもと、今次回答に込められた会社の強い思いを組合員一人ひとりにしっかりと伝えていく」と述べられたうえで、本日改めて「会社の姿勢と真情等が込められたわれわれへの『強いメッセージ』として受け止め、次はわれわれ組合・組合員がそれに応えていかなければならない」との思いを示された。会社は連合会のこうした取り組み姿勢に対して敬意を表する次第である。当社は短期的に社会・経済が大きく変化する時代にあって、迅速かつ柔軟に変化に対処しうる強靭な体質を構築すると同時に、将来に向けてもカーボンニュートラルという大変革に挑戦していかなければならない。このような困難な課題に取り組むにあたっては、会社としては苦境に陥っても揺るぐことのない会社と従業員との信頼関係、そして労使が心を一つにして課題に立ち向かって行く信念が何にも増して重要と考えている。

組合ならびに従業員の皆さんにおかれては、当社を取り巻く環境と当社経営の実情および課題を冷静に直視され、今次回答に込めた会社の姿勢と真情そして決意を汲み取っていただき、一丸となって「総合力世界No.１の鉄鋼メーカー」に向けて力強く前進していくようお願いする次第である。